

2020年8月6日

上場会社名 永大産業株式会社
 コード番号 7822 URL <https://www.eidai.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 枝園 統博
 (氏名) 森下 昌樹

TEL 06-6684-3020

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	13,044	△0.3	△214	—	△197	—	△217	—
2020年3月期第1四半期	13,078	△16.7	△590	—	△552	—	△581	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △64百万円 (—%) 2020年3月期第1四半期 △758百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△4.93	—
2020年3月期第1四半期	△12.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	69,318	41,569	60.0	940.21
2020年3月期	68,752	41,965	61.0	948.64

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 41,553百万円 2020年3月期 41,925百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	8.50	—	7.50	16.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 2021年3月期の配当につきましては、業績予想を合理的に算定することが困難であることから現時点では未定としております。業績予想の開示が可能となった段階で配当予想を速やかに公表いたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

新型コロナウイルス感染症の拡大が業績に与える影響を見通すことが困難であることから現時点では未定としております。業績予想の合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期1Q	46,783,000 株	2020年3月期	46,783,000 株
2021年3月期1Q	2,588,416 株	2020年3月期	2,588,416 株
2021年3月期1Q	44,195,384 株	2020年3月期1Q	45,295,384 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により個人消費が大きく低迷するなど景気は急速に悪化し、厳しい状況に陥りました。緊急事態宣言の解除に伴い、経済活動は段階的に再開されておりますが、感染症の収束時期が見通せないことから景気低迷の長期化が懸念されております。

住宅業界におきましては、2019年10月の消費税率引き上げに伴う住宅購入マインドの低下に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により新設住宅着工戸数は弱含みで推移しました。

当社グループでは、出張や外出の自粛、在宅勤務の拡大といった感染拡大防止策による一定の制約下での事業活動を余儀なくされるなか、住宅分野でのシェアアップと新設住宅着工戸数に依存しない事業構造への転換に取り組むとともに、相次ぐ自然災害の発生を踏まえた生産拠点の複数化、物流及び情報システムの改革を進めました。また、住設分野での事業を強化するため、2020年3月に株式会社ノーリツの連結子会社である株式会社アールビーの事業の一部譲受を決議したことを受け、4月7日に事業運営を担う関東住設産業株式会社を設立し、7月1日の事業譲受に向けて生産、販売両面での運営体制を整備しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、E Nボード株式会社(2021年3月操業開始予定)の設立に伴い、山口・平生事業所内のパーティクルボード工場を2019年9月末で閉鎖した影響に加え、緊急事態宣言の発出を受けてショールームの一時休館や対面での営業活動を控えた影響もあり、13,044百万円(前年同四半期比0.3%減)となりました。

損益面では、営業活動が制約された状況ではありましたが、全社一丸となって粗利率の向上、販売費及び一般管理費の圧縮に取り組んだ結果、営業損失214百万円(前年同四半期は営業損失590百万円)、経常損失197百万円(前年同四半期は経常損失552百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失217百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失581百万円)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(住宅資材事業)

住宅資材事業におきましては、フローリング、室内階段、室内ドア、収納等の色柄、デザインを体系化し、それらを組み合わせたインテリアスタイルが特長である「Skism(スキスム)」ブランドの拡販に注力するとともに、製品構成の更なる充実製販一体となって取り組みました。

このほか、各分野別の取組は以下のとおりであります。

建材分野では、丁寧に組んだ寄木細工が魅力の「銘樹パーケット」、各樹種の特長を活かした色柄が選択できる「銘樹ヘリンボーン ファボリ」、部分的な濃淡による美しいゆらぎを演出した「銘樹エルテージ」を発売するなど、銘樹ブランドのより一層の強化を図りました。さらに、お客様から好評をいただいている室内階段の正寸プレカットにおいて社内のシステム連携を強化し、見積・発注業務の効率化を図り、営業活動の強化に繋げております。

内装システム分野では、主力製品である室内ドア、造作材、クロゼット、シューズボックスの販売拡大に努めました。また、非住宅分野における販売拡大を図るため、幼稚園、保育園等の園舎や介護施設、高齢者住宅等に対応する製品「セーフケアプラス」の拡充を図るとともに、製品カタログを大幅に刷新し、販売促進ツールの充実を図りました。

住設分野では、普及グレードのキッチンとしてシンクや扉デザイン等の標準装備を充実させたシステムキッチン「ラポッテ」を発売しました。さらに、コストパフォーマンスに優れた洗面化粧台「キューボプレーン」「シャンピーヌプレーン」「LTプレーン」を発売するなど、水廻り製品の強化を図りました。

しかしながら、緊急事態宣言の発出を受けてショールームの一時休館や対面での営業活動を控えた影響もあり、当第1四半期連結累計期間の売上高は11,962百万円(前年同四半期比2.9%増)、セグメント利益は213百万円(前年同四半期はセグメント損失205百万円)となりました。

(木質ボード事業)

木質ボード事業におきましては、ENボード株式会社(2021年3月操業開始予定)の設立に伴い、山口・平生事業所内のパーティクルボード工場を2019年9月末で閉鎖した影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年同期実績を下回る結果となりました。一方、粗利率の向上や販売費の圧縮を図り、利益の確保に努めました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,039百万円(前年同四半期比26.5%減)、セグメント損失は1百万円(前年同四半期はセグメント利益52百万円)となりました。

(その他事業)

当社グループは、上記事業のほか、不動産有効活用事業、太陽光発電事業を推進しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は42百万円(前年同四半期比1.2%増)、セグメント利益23百万円(同4.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ566百万円増加し、69,318百万円となりました。主な要因は、売上債権、たな卸資産がそれぞれ減少したものの、建物及び構築物、建設仮勘定及び投資有価証券がそれぞれ増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ962百万円増加し、27,749百万円となりました。主な要因は、仕入債務、未払金及び未払消費税等がそれぞれ減少したものの、借入金が増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ396百万円減少し、41,569百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払いによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、2020年5月22日に公表しました「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」におきまして、新型コロナウイルス感染症が業績に及ぼす影響を合理的に算定することが困難であることから、2021年3月期の業績予想及び配当予想を未定としております。現在、住宅業界の需要動向や住宅着工から当社が販売する住宅内装部材の施工までの期間を考慮した業績への影響期間等、感染症の動向を踏まえた前提条件の精査を進めておりますが、予想値の公表には今しばらく時間を要する見込みであります。

今後、合理的な前提条件に基づく業績予想の算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,439	6,523
受取手形及び売掛金	13,358	12,343
電子記録債権	6,819	6,181
製品	5,264	4,842
仕掛品	2,548	2,625
原材料及び貯蔵品	4,654	4,552
未収入金	1,478	1,306
その他	303	356
貸倒引当金	△8	△2
流動資産合計	40,859	38,729
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,782	5,101
機械装置及び運搬具（純額）	2,669	2,749
土地	7,120	7,120
建設仮勘定	3,654	5,669
その他（純額）	563	556
有形固定資産合計	18,790	21,197
無形固定資産	601	569
投資その他の資産		
投資有価証券	7,067	7,331
出資金	7	7
長期前払費用	689	674
繰延税金資産	140	140
その他	608	681
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	8,500	8,821
固定資産合計	27,892	30,588
繰延資産	1	1
資産合計	68,752	69,318

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,230	4,537
電子記録債務	159	213
短期借入金	1,668	1,750
未払金	10,134	9,662
未払費用	534	544
未払法人税等	110	19
未払消費税等	653	233
賞与引当金	439	654
災害損失引当金	15	—
その他	60	95
流動負債合計	19,006	17,711
固定負債		
長期借入金	4,802	6,980
繰延税金負債	261	331
退職給付に係る負債	2,370	2,396
環境対策引当金	83	81
負ののれん	164	156
長期預り保証金	90	90
その他	8	0
固定負債合計	7,780	10,037
負債合計	26,787	27,749
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,285	3,285
資本剰余金	1,370	1,370
利益剰余金	36,475	35,925
自己株式	△820	△820
株主資本合計	40,309	39,760
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,446	1,629
為替換算調整勘定	287	273
退職給付に係る調整累計額	△130	△120
繰延ヘッジ損益	12	10
その他の包括利益累計額合計	1,615	1,792
非支配株主持分	40	15
純資産合計	41,965	41,569
負債純資産合計	68,752	69,318

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	13,078	13,044
売上原価	10,131	9,835
売上総利益	2,946	3,209
販売費及び一般管理費	3,537	3,423
営業損失(△)	△590	△214
営業外収益		
受取利息	4	6
受取配当金	42	42
仕入割引	3	2
為替差益	8	14
負ののれん償却額	7	7
持分法による投資利益	8	4
雑収入	21	19
営業外収益合計	97	97
営業外費用		
売上割引	24	26
雑損失	34	54
営業外費用合計	59	81
経常損失(△)	△552	△197
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
減損損失	9	—
固定資産除却損	1	15
固定資産撤去費用	—	8
特別損失合計	11	23
税金等調整前四半期純損失(△)	△564	△220
法人税等	17	20
四半期純損失(△)	△582	△240
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△23
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△581	△217

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△582	△240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△184	183
為替換算調整勘定	0	△14
退職給付に係る調整額	8	10
繰延ヘッジ損益	—	△3
その他の包括利益合計	△176	175
四半期包括利益	△758	△64
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△758	△40
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、関東住設産業株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動への影響や収束時期等の仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,622	1,414	13,036	41	13,078	—	13,078
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	236	236	—	236	△236	—
計	11,622	1,650	13,273	41	13,314	△236	13,078
セグメント利益又は損失(△)	△205	52	△153	22	△130	△459	△590

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,962	1,039	13,002	42	13,044	—	13,044
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	288	288	—	288	△288	—
計	11,962	1,328	13,290	42	13,332	△288	13,044
セグメント利益又は損失(△)	213	△1	212	23	235	△450	△214

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。